

サハリン先住民族の たどった戦後

—樺太アイヌ、ウイルタ、ニヴフの〈引揚げ〉と〈残留〉について



「敷香(現ポロナISK)での日本人捕虜の収容風景」(1945年)

『第2次世界大戦、最後の一斉射撃 —1945年8月のサハリンとクリル』(2010年、ルベージュ社、ウラジオストク)より

講師: **田村将人**(札幌大学特命准教授)

入場無料、申込不要

1945年を境に、〈故地〉を離れることになった旧日本領樺太の先住民族。樺太アイヌの人口約1200人のほぼすべて、ウイルタ、ニヴフなどの人口約400人の1割ほどが、日ソ戦争、東西冷戦のはざままで、和人と同じような歩みをするようになりました。その〈引揚げ〉の経緯と、そのまま住み続けた人びとについてお話します。

日時: **6月28日(金) 18時30分～20時(開場18時)**

会場: 北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)2階 202教室

※駐車場はございません。公共の交通機関をご利用ください。

主催: 北海道大学アイヌ・先住民研究センター

お問合せ: 北海道大学アイヌ・先住民研究センター

TEL/FAX: 011-706-2859 E-mail: ainu@let.hokudai.ac.jp

ホームページ: <http://www.cais.hokudai.ac.jp/>

